

令和4年度

森林教育活動事例集



はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めており、その取組の一つとして、この税を活用して、平成28年4月から、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、森林教育のコーディネーター、指導者の育成や紹介、出前授業や活動事例集の発行などを通じた森林教育に取り組んできました。

こうした中、令和2年10月には、森林や社会を巡る情勢の変化に対応するため、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、「みえ森林教育ビジョン」を策定し、森林教育の基本的考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、保育関係者、教育関係者等と共有しながら、これらの取組を一体的に進めています。

結びに、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月 三重県農林水産部

みえ森林教育とは

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）に育つことを促す教育活動をいいます。

みえ森林教育の基本的考え方

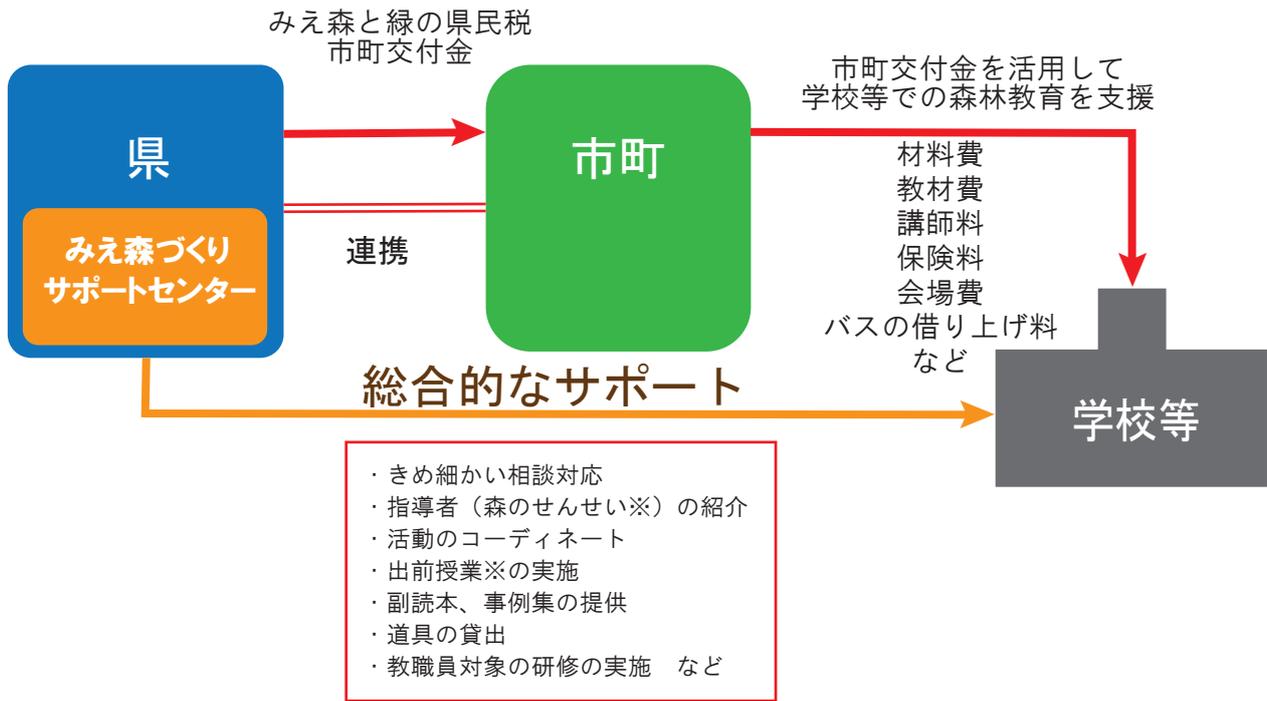
- ①森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- ②森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- ③自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

※なお、この事例集に関するお問い合わせや、森林教育活動のご相談は「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

「みえ森と緑の県民税」を活用した森林教育について

三重県では、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市町が地域の実情に応じて創意工夫して税の導入目的に沿った施策を展開できるように、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、市町が小中学校などでの森林教育に活用することができる仕組みとなっています。

市町交付金を活用した森林教育実施の流れ



取組事例

① 学校で実施できる事例

- ・ 森のはたらきなどについての座学
- ・ クラフト体験や木工工作
- ・ 校庭の樹木の名札付けや自然観察
- ・ 学校林での林業作業体験 など

② 校外で実施出来る事例

- ・ 県民の森や森林公園での森林体験
- ・ 宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・ 遠足での森林体験
- ・ 製材所等への社会見学 など

※ 森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。

※ 出前授業

これから森林教育を始めようとする学校に、要望に応じてみえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業を行います。

（年間10校程度を選定・実施）

※ただし、過去に出前授業を行った学校は対象外になります。

目 次

1	尾鷲ヒノキの木工キットでカレンダー作り 尾鷲市内の幼稚園・保育園・認定こども園	5
2	学校の森について学ぼう！ 木曾岬町立木曾岬小学校	6
3	丸太切り体験 ～木と改めて出会う～ 津市立安濃小学校	7
4	森や林業について学び、三重県産間伐材を使った木工体験をしよう 松阪市立松尾小学校	8
5	三重の木の良さにふれよう ～ヒノキとスギの箸づくり～ 多気町立津田小学校	9
6	森林のはたらきを知ろう、県産材を使おう ～御糸織の糸を使ったキーホルダー作り体験～ 明和町立下御糸小学校	10
7	森や木、林業についての話 丸太切り体験とキーホルダー作り 明和町立修正小学校	11
8	森や木材について学ぼう ～コースター作りをとおして～ 伊勢市立中島小学校	12
9	森の働きと私たちの地域の海とのつながりを知ろう 伊勢市立みなと小学校	13
10	林業と森の働き コースター作り 伊勢市立豊浜東小学校	14
11	森のせんせいと一緒に夏のハマボウを観察しよう 伊勢市立豊浜東小学校	15
12	ラブリバー公園を探検しよう 伊勢市立豊浜西小学校	16
13	大仏山公園を探検しよう 学校のクスノキ・イチヨウについて知ろう 伊勢市立城田小学校	17
14	森のおくりもので作品をつくろう！ 伊勢市立上野小学校	18
15	小俣小学校で自然体験学習をしよう！ 伊勢市立小俣小学校	19
16	森林の働きや林業について知ろう 志摩市立神明小学校	20

17	シイタケの菌打ちから森を知る 伊賀市立神戸 <small>かんべ</small> 小学校	21
18	松明 <small>たいまつ</small> になるのは100年後！ 世代をつなぐ松明山 <small>たいまつやま</small> の植樹活動（無形民俗文化財保全事業） 名張市立錦生赤目 <small>にしきおあかめ</small> 小学校	22
19	尾鷲市自然環境プログラム ～山育 <small>やまいく</small> ・海育 <small>うみいく</small> ～ 尾鷲市立矢浜 <small>やのはま</small> 小学校、向井小学校、輪内 <small>わうち</small> 中学校	23
20	尾鷲ヒノキの木エキットで本棚作り 尾鷲市内の各小学校	25
21	三重の木で世界に一つだけのMy箸をつくろう 南伊勢町立南勢中学校	26
22	地元の木を使った商品開発 ～お世話になっている地域への「お返し」～ 三重県立飯南高等学校	27
23	『木』を知ろう ～マイスプーン作り～ 三重県特別支援学校伊賀つばさ学園 中学部	28
24	森林とわたしたちの暮らし ～三重の森林～ 三重大学教育学部附属小学校	29
25	Save The Earth Projects ～次世代につなぐ持続可能な森林とは？～ 三重大学教育学部附属中学校	30
26	森や木について学ぼう ～県産材を用いて自分だけの小箱を作ろう～ 皇學館中学校	31
27	木育体験教室 ～みて、さわって、つくって～ 深谷 <small>ふかや</small> 教育集会所	32
28	里山保全活動 四日市市少年自然の家	33
29	森のめぐみのプレイパーク！ 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会	34
30	原木シイタケ菌打ち活動 ～森の恵みを体験しよう！～ 原木 <small>げんぼく</small> と菌床 <small>きんしょう</small> シイタケの違いを食べて学ぼう 松阪市森林公園	35
31	2022年度 お楽し森の学校 伊賀ぴよクエの森（三重県上野森林公園）	36

01

尾鷲ヒノキの木エキットでカレンダー作り

尾鷲市内の幼稚園・保育園・認定こども園



尾鷲ヒノキの葉や木肌を直接感じてもらう



サイコロ状の木製カレンダー作り



ねらい

- ・ 地元の特産品である尾鷲ヒノキの良さを改めて確認しながら、地産地消の取り組みの一環として、尾鷲ヒノキのカレンダー作りなどの森林教育を実施する
- ・ 尾鷲ヒノキに直接ふれる機会を創出し、将来に繋がるよう尾鷲ヒノキファンを増やす

取組内容

尾鷲ヒノキの丸太や10年生のヒノキを園内に展示し、尾鷲ヒノキの特徴である強い香りや肌ざわりを直接感じてもらいました。その後、園児たちは尾鷲ヒノキのサイコロカレンダーを作りました。作業工程を簡素化することで、園児でも容易に作ることができました。曜日や数字は書いたり、スタンプを押したりしました。

内容	・ 尾鷲ヒノキの話 ・ 尾鷲ヒノキのカレンダー作り
時間	1 時間程度（預かり時間内 幼保・認定こども園）
場所	各施設 6 か所
対象	保育園・幼稚園・認定こども園 224 人
講師	尾鷲市水産農林課
備考	尾鷲市の「学校事業等における地元産材活用支援事業」

【先生のコメント】 尾鷲ヒノキに触れたり実物を見るのがあまりないので、子どもたちにいい経験となりました。次年度もこのような体験を継続して行ってほしい。

02

学校の森について学ぼう！

きそさき きそさき
木曾岬町立木曾岬小学校



学校の森の前での話



冬芽観察



各班の発表を聴く



班ごとに観察



落葉の下、地面の観察



見つけてきたものを観察



班ごとの発表の様子

ねらい

・「学校の森」を観察し、秋の樹木や森の様子を知る

取組内容

最初に森のせんせいから「植物とは何か。」について話を聞き、植物に対する理解を深めました。

その後、「学校の森」の中に入り、散歩しながら木々の名前や特徴などを教えてもらいました。グループの中には、マツやモミジなどの種を見つけた子もあり、種の形に驚き、植物のおもしろさを感じていました。また、グーチョキパーの形をした葉やおいしいドングリの話などを楽しみながら聞きました。

室内に戻ってからは、班で気づいたことなどを発表して共有しました。班によって、気づいた内容などが異なり、興味深そうに各班の発表を聴く姿が見られました。

内容	・学校の森の樹木観察
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	学校の森・ふれあいホール
対象	4 年生 32 人
講師	森のせんせい：三重森林インストラクター会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 身近に素晴らしい森があることに気づききっかけとなりました。活動後、休み時間などに学校の森に散策しに行く姿なども見られました。

03

丸太切り体験 ～木と改めて出会う～

あのを
津市立安濃小学校



ねらい

- ・五感を使って木にふれ、地域にある身近な森をより身近に感じる
- ・木の加工を通じて、身の回りにある木材製品を身近に感じる
- ・木を使うことで、森林が元気になることを知る

取組内容

まず、森のせんせいから森林クイズを通した森林の特徴を教えてくださいました。30種類以上の樹木の枝葉や木の実などの展示物からそれぞれの枝葉やドングリの種類、カエデの種の話などを聞きました。その後、バードコールを作るために丸太切り体験を行いました。丸太切りの時には一対一で指導をしていただき、切れた時は達成感と喜びの表情が多数みられました。

サンドペーパーで磨き、ネジを取り付け、音が鳴った瞬間、子どもたちからは歓声が上がりました。作ったバードコールをそのまま一人一つお土産にいただき、木に親しみ、木を好きになり、木を大切に思うことができました。

【先生のコメント】 子どもの実態に合わせた要望にも細かく応えていただきました。打ち合わせも丁寧にしていただき、とてもいい機会になりました。さまざまな樹木の枝葉や実に触れることができる機会となりました。

内容	・森の話 ・丸太切り体験とバードコール作り
時間	55分（自立活動の時間）
場所	図工室
対象	特別支援学級きらぼし 12人
講師	森のせんせい：小野豊和氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

04

森や林業について学び、 三重県産間伐材を使った木工体験をしよう

松阪市立松尾小学校



森の働きや林業の作業と緑の循環の話



ノコギリで丸太切り体験



チェーンソーの重さ体験



ペーパー仕上げをし、キーホルダー作り

ねらい

- ・ 森の働きや林業について学ぶ
- ・ 三重県産の木材を使用することで、SDGsに対する意識も高める
- ・ 木工体験を通して、間伐材の利用について考える

取組内容

実際に林業に携わる方から、森の働きや、間伐などの森林の仕事と手入れの必要性、山・川・海の繋がり、緑の循環についてなどの話を聞き、ノコギリで丸太切りを体験し、キーホルダーを作りました。児童たちは木の香りや感触を楽しみ、木の良さや間伐材の利用について考え、SDGsの意識を高めました。

また、チェーンソーでの伐採や高性能林業機械の動画を見て、林業についての理解を深めたり、様々な樹木の葉や材、円盤の展示では、木の感触や色合い、香りを実感していました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とキーホルダー作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	体育館
対象	5 年生 47 人
講師	森のせんせい：松阪飯南森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 実際に見たり触ったりすることで、子どもたちは意欲的に参加できてとても楽しそうでした。

森林公園を使用する時に手入れする人がいるから使用できることや、林業に携わる人たちが土砂崩れから私たちの生活を守ってくれることなど森林の大切さと役割を知り、森林についての学習を深めることができました。

05

三重の木の良さにふれよう ～ヒノキとスギの箸づくり～

多気町立津田小学校



鉋（カンナ）の使い方を教えてもらう様子



森林の景観や機能について紹介する様子



箸づくりに挑戦する様子



真剣に箸づくりに取り組む様子



森のせんせいからもコツを伝授！

ねらい

- ・ 県内の森林や林業の様子を知る
- ・ 県産材を使って、箸づくりを行い、木の良さを感じ、木に親しむ
- ・ 森林に関わる人たちの仕事について知る

取組内容

森のせんせいから、森林についての話を聞きました。特に、箸づくりに使うヒノキとスギの特長を詳しく教えてもらいました。ヒノキはかたく、香りがよく、スギはやわらかく、真っ直ぐで扱いやすいので、建具に用いられるなどの話や、大杉谷の美しい自然の様子を写真を通して話していただきました。そして、自然豊かで美しい森を作っていきたいという森林を愛している思いも語っていただきました。

箸づくりでは、一人ひとりにカンナを用意していただき、スギとヒノキでそれぞれ一膳ずつ作りました。はじめに予め用意していただいた型に木を入れてカンナで箸の形になるように削りました。その後は、サンドペーパーで面取りをし、ミツロウを塗って、仕上げました。カンナを使うのは皆初めてでしたが、きめ細やかな準備とご指導をいただき、全員が素敵な箸を作ることができました。

内容	・ 森林と林業の話 ・ マイ箸作り
時間	約 2 時間
場所	図工室
対象	5 ～ 6 年生 18 人
講師	森のせんせい：宮川森林組合
備考	多気町「みえ森と緑の県民税交付金木とふれあう教育支援事業」による出前事業

【先生のコメント】 子どもたちは、身近なところにある大杉谷の自然に驚き、また美しさに感動しているようでした。また、自分で作った素敵な箸が出来上がり、とても満足していました。とても素晴らしい体験をさせていただき、ありがたかったです。今後も、継続して体験させていただけたらと思います。

森のはたらきを知ろう、県産材を使おう

～御糸織の糸を使ったキーホルダー作り体験～

06

明和町立^{しもみいと}下御糸小学校



ねらい

- ・楽しく木にふれ、木の良さを感じ、木に親しむことができる
- ・森からの水が祓川から伊勢湾までつながっていることを知る

取組内容

3・4年生は地域の川、祓川の水生物調査を毎年行っています。地域学習の一環として、祓川の源の森林のことも学びたいと考え、今回の活動をお願いしました。

はじめに、森のせんせいによるチェーンソーでの玉切り実演がありました。切ったスギとヒノキの丸太は、丸椅子としてプレゼントしていただきました。

次に、飯高の森の木であるヒメシャラを使ってキーホルダーを作りました。まず、各児童がノコギリでヒメシャラの小径木を切り、サンドペーパーできれいに磨きました。森のせんせいに穴をあけてもらい、ミツロウを塗って仕上げました。また、明和町の特産品である御糸織の糸を編んでひもにし、キーホルダーに通して完成させました。

児童たちは、手ざわりや香りなど五感を通して木の良さを感じ、また、座学では、祓川の水源地が飯高の森であること、森からの養分が祓川や伊勢湾に流れ込み、田や漁場に豊かな恵みをもたらしてくれているという話を聞いて、森の役割や大切さを学ぶことができました。

内容	・森林や林業の話 ・キーホルダー作り
時間	2 時間 40 分（総合的な学習の時間）
場所	体育館、校庭
対象	3 ～ 4 年生 26 人
講師	森のせんせい：宮川森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林教育」

【先生のコメント】 ノコギリを使って自分で木を切り、一生懸命に何十分も木を磨き、地元の御糸織のひもを通して作った「世界に一つだけ」のキーホルダーは子どもたちの宝物になりました。森のせんせいのステキなお話も目を輝かせて聴いていた子どもたちです。貴重な体験の機会をありがとうございました。

07

森や木、林業についての話 丸太切り体験とキーホルダー作り

明和町立修正小学校



チェーンソーでの丸太切り実演



ノコギリの使い方を教わる



キーホルダーづくり



スギの葉の観察



ノコギリ体験



年輪の数え方

ねらい

- ・地域の稲作の豊かな水の源である宮川上流域で林業に携わる方から、森林や林業の現状、森林の働き、大切さを学ぶ
- ・林業の仕事の一つ、チェーンソーでの作業の様子を知る
- ・実際に木や葉等にふれ、香りや感触など五感で感じる体験をする
- ・木の小物作りを通して、様々な種類の木があることを知り、木に親しむ

取組内容

校庭では、チェーンソーでの丸太（スギ・ヒノキ）切りの実演を見学しました。山の斜面で安全に注意して作業するための装備や、チェーンソーの音、木の香り、丸太の重さを体験し、年輪を数えて樹齢についても考えました。

座学では、スギの葉や学校にあるカイツカイブキの葉などの観察や上流域で行われる林業の話から、森林の多面的機能と木の生長の仕組みを学びました。また、校区の方から教わった美味しいお米と豊かな水との関係について、豊かな水の源である森林の安定こそが、私たちの生活の基盤であることを学び、そして山から海までは、水を通じて密接な関係があることを知ることができました。森を大切にすることで、海の命が守られることにつながることを学びました。

キーホルダー作りでは、ノコギリの使い方を教わり、ヒメシヤラの材を輪切りにする体験をしました。その後サンドペーパーをかけ、ミツロウワックスで仕上げ、紐を通して完成させました。

内容	・森林や林業の話 ・丸太切り体験とキーホルダー作り
時間	3 時間（社会科・図画工作科）
場所	校庭・図工室
対象	5 年生 6 人
講師	森のせんせい：宮川森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森林や林業のことを知る良い機会になりました。児童のランドセルを見てみると、作成したキーホルダーがぶら下がっています。児童はキーホルダーを見るたびに、あんなことやったなあ、こんなこと見たり、聞いたりしたなあと思ひ返せます。

08

森林や木材について学ぼう

～コースター作りをとおして～

伊勢市立中島なかじま小学校



木材の話



電熱ペンでコースターにデザイン



年輪数え



丸太切り体験

ねらい

- ・ 森のはたらきや人工林、天然林などの森の特徴、伊勢の森や林業、緑の循環について知る
- ・ 三重県産の間伐材ヒノキを使って丸太切り体験を行い、コースターを作る

取組内容

- ・ 森林のはたらきや天然林、人工林、伊勢の森林や林業についての話を聞きました。山の手入れをしているところや木を切り倒す動画なども視聴し、林業について詳しく学ぶことができました。
- ・ 100年を超す樹齢の丸太やチェーンソー、山へ入るときの靴やヘルメットなどを見せていただきました。また、年輪の数え方を教えていただきました。
- ・ 三重県産のヒノキの間伐材を用いて、丸太切り体験を行いました。「思っていたよりも大変」などと言いながら直径10cmほどの丸太を切っていました。
- ・ 自分で切った木材をサンドペーパーで磨き、自分だけのコースターに仕上げました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とコースター作り
時間	2 時間（社会科）
場所	体育館
対象	5 年生 42 人
講師	森のせんせい：森下智彦氏、 森のせんせい：森下ゆう子氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 1時間目はパワーポイント、画像、動画、クイズなどがあり楽しみながら理解を深めることができました。2時間目のコースター制作も楽しく体験することができ、どの児童も満足していました。これからも機会があれば実施していきたいです。

森の働きと私たちの地域の 海とのつながりを知ろう

伊勢市立みなと小学校



森のせんせいの話



チェーンソーデモンストレーション



年輪を数えたり、スギなどの葉の手ざわりやにおいの体験



木の加工 箸作り体験

ねらい

- ・ 森林が豊かになることが、海が豊かになること、海を守ることにつながることを学ぶ
- ・ 木を使うことで、森林が元気になることを知る。体験を通して木の加工のしやすさを実感する
- ・ キャリア教育として林業の楽しさや意義を学習する

取組内容

私たちの学区は海に面しています。歴史的には船着き場であり造船の町であった地域です。今でもウミガメが産卵に来る浜もあります。森林が水を貯えたり、生きものの生活の場であるだけでなく、豊かな海は森林を守っていくこととつながっていることも学びました。

また、実際にスギやヒノキ、広葉樹を観察し、年輪を数えて木が育つ年月を実感しながら、森林を身近なものに感じることができました。実際の林業の様子が見えるようにと、ヘルメット・ウエア・チャップスなどフル装備で、チェーンソーで丸太を切るデモンストレーションを見学しました。

最後に加工のしやすさを実感する目的で、箸作りを体験しました。カッターナイフの使い方から削り方まで丁寧に教えていただき、物作りの楽しさも味わうことができました。

【先生のコメント】 森林の役割と海とのつながりをわかりやすいパワーポイントで、クイズを交えて楽しく説明していただき、子どもたちもとても楽しく学習することができました。また、実際に年輪を数えたり、代表的なスギなどを手に取ることで森林を身近なものに感じることができたように思いました。

作った箸は「手に良く馴染む」と木の良さも実感することができ、とても有意義な学習になりました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	多目的ホール、図工室・理科室、運動場
対象	5 年生 54 人
講師	森のせんせい:いせしま森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

10

林業と森の働き コースター作り

伊勢市立豊浜東小学校



森のせんせいの話



安全な丸太の切り方の話



丸太切り体験



コースター作り



コースター完成

ねらい

- ・ 森の働きや林業にたずさわる人の仕事について知る
- ・ 間伐材の利用が森を守っていくことを知る
- ・ 三重県産材を使った木工工作体験を通して、間伐材の利用について考える

取組内容

(1時間目) 林業や森林の働きについての話

- ・ 木を伐り出したり、伐り出された木材を積み込んだりする映像や、約120年経ったヒノキやスギの木材を見ながら、話を聞きました。
- ・ 木材を運んでいる昔の宮川の写真と、現在の宮川の写真を比較して見せてもらい、子どもたちにとって身近な宮川が昔から林業と深く関わっていることを学びました。
- ・ 木材クイズをしたり、森のせんせいが撮った自然の写真を見せてもらったりしながら、課題ややりがいのあるまま聞くことで、より森や林業を身近に感じることができました。

(2時間目) コースター作り

- ・ ヒノキの間伐材の丸太をノコギリで切る体験ができました。
- ・ 自分で切った木材に、バーニングペンで絵や字をかいて、コースターを作りました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とコースター作り
時間	2 時間（社会科）
場所	教室
対象	5 年生 9 人
講師	森のせんせい：有限会社 森下林業
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 授業前、ヒノキの間伐材が通った廊下からヒノキの香りがしていたらしく、香りをたどってきた子どもが「いい香り。」と言いながら、間伐材が運び込まれた教室に嬉しそうに入ってきていました。山が遠くて海に近い地域なので、木のおいや手ざわり、森のはたらきが海を豊かにすることの話などから、森林や林業を身近に感じられるよい機会となりました。

森のせんせいといっしょに 夏のハマボウを観察しよう

伊勢市立豊浜東小学校



手でさわって観察。ハマボウの花びらは、ツルツルしていたよ。



タブレットで撮影して観察。花の中には、おしべとめしべがあったよ。



森のせんせいの話。ハマボウが水辺に生えているわけがわかりました。



タブレットの写真を使って、交流学习。春とくらべて、葉が多くなり、色も濃くなりました。

ねらい

- ・夏のハマボウの様子を観察し、花や葉の特徴を知る
- ・絶滅危惧種に指定されているハマボウについて、その大切さを知り、学んだことを人に伝えられるようにする
- ・3年生と4年生が交流しながら、楽しく活動する

取組内容

- ・児童たちは、地域の身近な森林であるハマボウ群生地について、年間をとおして観察し、その特徴や存在意義、大切さを学んでいます。今回は群生地に出かけ、実際にさわったりタブレットで撮影したりしながら、春の頃とくらべて葉の数が増え、色も濃くなったこと、花をつけたことなどのちがいをたくさん見つけました。
- ・4つのたてわり班で活動し、4年生が3年生にめしべやおしべについて教えたり、安全について声かけしたりする様子が見られました。
- ・木に残っている実を水路の水面に投げ入れて、種が水に乗って流れていく様子を見たり、森のせんせいに質問したりして、ハマボウの種は水に浮いて遠くまで流れ、根を生やすことを知りました。
- ・4年生は、春のハマボウと夏のハマボウのちがいをタブレットの写真も使って3年生に説明し、楽しく交流することができました。

【先生のコメント】 4年生は、地域の特徴的な自然資源であるハマボウについて四季を通して継続的に観察しています。夏については3年生との異学年交流の場として位置づけ、理科の学習を深めるだけでなく、地域の森林資源に対する理解を深めるとともにコミュニケーション力も向上させることができました。

内容	・ハマボウの群生地観察 ・ハマボウについての話
時間	3時間（理科）
場所	ハマボウ群生地
対象	3～4年生 19人
講師	森のせんせい：中馬千鶴氏
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

12

ラブリバー公園を探検しよう

伊勢市立豊浜西小学校



最初に自然の音に集中して耳を澄ませている様子



カードを使い色や形に着目して葉を集めている様子



自分が集めたものを共有している様子



ドングリの実を手に取り、色の違いを見ている様子

ねらい

- ・ 森のせんせいと一緒に生きものや植物を見つけたり、様々な自然体験を楽しむ
- ・ 環境や森林を守る学習をする

取組内容

最初に耳を澄ませ、集中して聴覚を働かせることで鳥の鳴き声、風の音などを聴いて感覚を研ぎ澄ませました。

その後、2つのエリアに分かれて活動を行いました。

【ドングリエリア】では、まだ木についているドングリの実や地面に落ちているドングリの色や形のちがいに目をつけて観察しました。モミジの木についている種を見つけ、くるくる回りながら落ちていくプロペラ遊びを行いました。

【落ち葉エリア】では、落ち葉の下に隠れている生きものを見つけたり、地面に落ちた木の实から芽を出した「木のあかちゃん」を観察したりしました。

内容	・ 自然体験 ・ 環境や森林の話
時間	1 時間（生活科）
場所	宮川ラブリバー公園
対象	1 年生 17 人
講師	森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・感じる自然体験プログラム

【先生のコメント】 一年生は元気いっぱい、運動場や公園で体を動かすことが大好きです。その分、ゆっくりのんびりと自然の中で過ごすことの少ない子どもたちにとって、今回の体験は、自然の風、空気（温度）、におい、そして小さな命などの普段当たり前にあるものの大切さに触れるいい機会になりました。



教室でクスノキの四季の変化について学習している様子



大仏山公園でマツの葉の手ざわりを確かめている様子



大仏山公園で樹木についての話を聞いている様子



大仏山公園でマツの葉相撲を楽しむ様子



大仏山公園でマツの香りをかぐ様子



大仏山公園でドングリの実や枝を使い作品づくりを楽しむ様子

ねらい

- ・大仏山公園で、様々な生きものや植物を見つけたり、様々な自然体験を楽しんだりする
- ・学校の校庭にあるクスノキ、イチヨウについて知り、親しみをもつ
- ・クスノキやイチヨウの葉・枝・実等を使って、作品づくりを楽しむ

取組内容

大仏山公園では、ドングリや木の実、紅葉し始めた葉の色の違いを観察しました。

マツの葉の手ざわりを感じたり、においをかいだりして、葉の特徴を感じ取りました。また、マツの葉を使ってマツの葉相撲遊びを楽しみました。

学校の校庭では、シンボルツリーであるクスノキやイチヨウについて、四季の変化について学ぶことができました。

クスノキの実や枝、葉の香りをかぎ、昔から生活に役立てられていることについて学習しました。

イチヨウの葉やクスノキの実、枝等を使い、作品づくりを楽しみました。

内 容	・公園での自然体験 ・学校の樹木観察
時 間	[大仏山公園] 2 時間 (生活科) [学校の樹木] 1 時間 (生活科)
場 所	大仏山公園、校庭
対 象	1 年生 45 人
講 師	[大仏山公園] 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏 森のせんせい：森川貴史氏 森のせんせい：越山多可子氏 [学校の樹木] 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏
備 考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

【先生のコメント】 ・大仏山公園では、森のせんせいと一緒にドングリや木の実等を楽しく観察し、自然に親しむことができました。
・校庭にあるイチヨウの葉やクスノキの実や枝等で好きな絵や模様をつくり、愛着をもって作品づくりに取り組みました。

14

森のおくりもので作品をつくろう！

伊勢市立上野小学校



作品づくりの材料



でき上がった作品



チェーンソーで木材を切る様子



実際にチェーンソーを持ち、重さを感じている様子

ねらい

- ・ 森林のはたらきを知り、大切にしていこうという気持ちを持つ
- ・ 木にふれることにより、木に親しみ、作る楽しさを感じる

取組内容

- ・ チェーンソーで実際に木材を切る様子を見て、大きな音がすることや危険が伴うこともあるため防護衣等を着ける必要があることを知ることができました。
- ・ チェーンソーで切った木材とノコギリで切った木材の手ざわりの違いを感じることができました。
- ・ 森林の役割や森のはたらきについて知ることができました。
- ・ 森で集めてきた木の実など、自然の物をたくさん使って自分だけの作品づくりを楽しむことができました。

内 容	・ 森林や林業の話 ・ 自然素材でオブジェ作り
時 間	2 時間（生活科）
場 所	校庭、教室
対 象	1 年生 19 人
講 師	森のせんせい：福山成宣氏
備 考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・感じる自然体験プログラム

【先生のコメント】 木に触れ、その匂いや気持ちの良さを感じることができていました。作品作りを通して、自然の物のおもしろさや良さを感じ、森に対して親しみを感じている様子が見られました。

15

小俣小学校で自然体験学習をしよう！

おばた
伊勢市立小俣小学校



2年生 イチョウの葉やクスノキの枝を使った作品づくり 枝や葉の形と色を生かしている組み合わせ、個性的なアート作品ができました



2～3年生 クスノキについての学習



3年生 樹木の音を聴く様子



4～6年生 クップ体験の様子 尾鷲ヒノキの香りや手ざわり、木材のぶつかる音など、木材の良さを感じながらクップを楽しみました

ねらい

- ・ 森林や林業の話聞くことで森林や自然について学び、木工作業を楽しむ(1年生)
- ・ クスノキの葉や幹の手ざわり・においの特徴や生活に役立てられていることを知る(2～3年生)
- ・ 実際の木材にふれ、手ざわりや香りなど木材を五感で感じながらスポーツを楽しむ(4～6年生)

取組内容

- 【1年生】実際の樹木にふれたり、香りをかいだりしながら森林についての話を聞くことで樹木を身近に感じながら学ぶことができました。
- 【2～3年生】普段からよく目にしている校庭のクスノキやイチョウ、岩石園の樹木について枝や実の香りをかいだり幹の手ざわりや色を確かめたりしながら、校庭の樹木を身近に感じながら学ぶことができました。
- 【4～6年生】森林についての話を最初に聞くことで、木材が自分達の生活に身近なものであることを感じる事ができました。尾鷲ヒノキを使った競技用具でクップを体験することで、手ざわりを確かめたり、音を楽しみながら地元の木材の良さを感じることができました。

内容	・ 森林や林業の話と コースター作り (1年) ・ 校庭の樹木観察 (2～3年) ・ 森林や林業の話と クップ体験 (4～6年)
時間	1 年生 2 時間 (生活科) 2 年生 2 時間 (生活科) 3 年生 1 時間 (理科) 4 ～ 6 年生 2 時間(総合的な学習)
場所	1 年生 体育館、 2 ～ 6 年生 校庭
対象	1 年生 106 人、2 年生 116 人、 3 年生 104 人、4 年生 99 人、 5 年生 130 人、6 年生 121 人
講師	(1 年生) 森のせんせい：いせしま森林組合 (2 ～ 3 年生) 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏 (4 ～ 6 年生) 森のせんせい：三重県クップ協会、 尾鷲市教育委員会、尾鷲市水産農 林課、伊勢農林事務所 林業普及 指導員、三重県林業研究所 普及・ 森林教育課
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活 動推進事業」ふれる・つくる・かん じる自然体験プログラム

【先生のコメント】

- 【1年生】 つるつるに磨いてから絵を描いて作ったコースター。子どもたちは「手で木のいいにおいがする」とうれしそうに大事に持ち帰りました。木や森林に触れる良い機会になりました。
- 【2年生】 自分たちと共に育てている木として親しみを持つことができました。枝葉でアート作品を作りましたが、柔軟で豊かな発想で素敵な作品ができました。これからも継続して木を観察したいです。
- 【3年生】 校庭のクスノキはまだ若い木であることを知ったり、自分たちより長く生きている木が町の変化をどんな思いで見えてきたかについて考えました。授業を通して命について考え、学校の木を大切にしていつまでも見守ってほしいと思うようになりました。
- 【4年生】 尾鷲ヒノキに触れ、ヒノキの手触りや重さ、香り、木と木がぶつかる音などを楽しみながら活動することを通して、木の大切さや林業をしている方の思いを学ぶことができました。
- 【5年生】 持続可能な林業について理解を深め、身近なところにFSCマークがあることを学びました。体験では尾鷲ヒノキの香りや手触りを確かめながら活発に取り組んでいました。
- 【6年生】 地元の林業に関わる人の話を聞くことで、これまで社会科などで学んできたことをより身近に考えることができました。また、クップ体験を通して楽しみながら教材の良さを感じることができました。

16

森林の働きや林業について知ろう

志摩市立^{しんめい}神明小学校



チェーンソーのデモンストレーション



森と木の話



マイ箸作り

ねらい

- ・豊かな海は森林と深い関係があることを知る
- ・木・森に関わる人々の思いや課題について知り、自分にできることを考える
- ・木にふれる経験によって親しみを感じながら、身の回りの木、森を見つめ直す

取組内容

はじめに、チェーンソーで丸太を切るデモンストレーションをしていただきました。子どもたちにとって林業は身近な仕事ではありませんでしたが、安全面に気を配って作業をしていることを知ることができました。

次に、「森と木の話」を聞かせていただきました。森林の働きを知り、森は海も豊かにしてくれるということに驚いていました。

最後に、三重県産材を使ったマイ箸作りを行いました。小刀を使い慣れていないため苦労していましたが、夢中で木を削っていました。できあがった箸をうれしそうに見せ、「お母さんにプレゼントする」と言っている子もいました。

内容	・森林や林業の話 ・マイ箸作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	体育館、体育館前駐車場
対象	6 年生 40 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 今年6年生は、「働く人から学ぶ」ということで、様々な職業の方からお話を聞かせていただいています。今回、どんな思いで仕事してみえるのか、どんなことを願っているのかが感じとれるお話を聞かせていただくことができよかったです。

17

シイタケの菌打ちから森を知る

伊賀市立^{かんべ}神戸小学校



森の役割やシイタケについての話



森のせんせいに菌打ちの仕方を教わる



木づちで菌を打つ



木のキーホルダーもつけて大満足



最後にみんなで思い出の写真を一枚

ねらい

- ・伊賀の森林や林業について楽しく学ぶ
- ・シイタケの菌打ち体験をとおして、木や森の役割やキノコの特徴、栽培方法などについて学ぶ

取組内容

生活科(地域や地域の人を知る)の学習の一環として、シイタケの菌打ちを実施することにしました。森のせんせいは、みえ森づくりサポートセンターからご紹介いただいた、伊賀で長年シイタケ栽培をしている廣島昭郎さんにお越しいただきました。

当日は、伊賀の森林や林業の話、森のはたらきの話聞いた後、シイタケやシイタケの育つ森や森に住む生きもののお話を聞いてから菌打ちをしました。

シイタケの特徴や育てる時の工夫や楽しみ、菌打ちの仕方や管理の仕方についてのお話を子どもたちは目を輝かせて聞いていました。ホダ木に菌を打ち、自分だけのキーホルダーをつけたときには、とても満足そうでした。

内 容	・森林や林業の話 ・シイタケの話 ・シイタケの菌打ち体験
時 間	3 時間 (生活科)
場 所	体育館
対 象	1 ～ 2 年生 21 人
講 師	森のせんせい：廣島昭郎氏 森のせんせい：伊賀森林組合 協力：三重県上野森林公園 モリメイト
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

【先生のコメント】 何から何までご用意いただき、そのおかげで子どもたちは「森の役割やシイタケの不思議」について興味をもち、安全に楽しく菌打ち体験をすることができました。二年後にシイタケが出てくるのを楽しみに待ちたいと思います。ありがとうございました。

たいまつ 松明になるのは100年後！

たいまつやま 世代をつなぐ松明山の植樹活動（無形民俗文化財保全事業）

にしきおあかめ
名張市立錦生赤目小学校



松明調進行事について事前学習



身近な緑にふれ合いながら目的地に向かいます



スコップで穴を掘って苗を植えます



この木が大きくなるのは100年後



ツリーシェルターをかぶせるのがむずかしかった

ねらい

- ・ 地元で古くから引き継がれる「伊賀一ノ井松明調進行事」に欠かせないヒノキ林の整備を行うことで、身近な森林を大切にする気持ちを醸成する
- ・ 植樹体験をとおして、身近な森林がどのように活用されているか知る

取組内容

770年以上続く、「伊賀一ノ井松明調進行事」は「無形民俗文化財」に指定されています。当行事を継承していくために、地域学習の一環として、この行事に用いられる松明木の原料を調達するヒノキ林を育成する植樹活動を行いました。

まず、植樹の1か月前に事前学習を実施し、「伊賀一ノ井松明調進行事」の内容や歴史について学びました。

次に、松明山で植樹を行いました。スコップで穴を掘り、苗を植えました。植樹後にシカの食害に遭わないようにツリーシェルターをかぶせて獣害対策を講じました。

ヒノキの植樹を地元小学生が行うことで、地域の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、身近な森林を大切にする気持ちを醸成することができました。

【先生のコメント】 今回の植林体験によって、身近な森や緑を大切にすることの重要性を学ぶことができました。

また、古くから地域に根付く伝統行事に携わることで地域学習も併せて行うことができ、地域の一員としての自覚を持つことができました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ ヒノキの植樹体験
時間	2 時間（地域学習の時間）
場所	極楽寺が所有する山林
対象	4 ～ 5 年生 41 人
講師	伊賀一ノ井松明講 講長 森本芳文氏 森のせんせい：伊賀森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「無形民俗文化財保全事業」

矢浜小学校（間伐体験とスウェーデントーチ作り）



ねらい

- ・ 尾鷲の魅力である自然をテーマにアクティビティ体験プランを生徒自らが企画・立案・実行することで、地域の自然を知るとともに生徒の成長を促す
- ・ 地元産の間伐材の活用方法を考え、実践し、尾鷲ヒノキの良さを知る

取組内容

次の小中学校で、山育・海育の一環事業を実施しました。

【矢浜小学校】

市有林の25年生ヒノキ林で間伐体験を行い、間伐の大切さや木の含水率などを学びました。

また、自分たちで伐った間伐材を輪切りにし、スウェーデントーチを作りました。

【向井小学校】

児童たちが、間伐材の利用方法を自ら考えて計画を立て、デイキャンプでイカダを作り、実際に水に浮かぶかどうかを校内のプールで実験しました。その後、イカダに使った丸太を活用したベンチ作りを実施しました。

【輪内中学校】

生徒自らが市有林の間伐材を活用してイカダを作成しました。古江漁港にてイカダ乗り体験を実施し、海から山を眺める時にヒノキの人工林が多いことを実感し、私たちの地域は海と山が密接に関係していることを肌で感じました。

向井小学校



地元産間伐材の利用方法について考える

輪内中学校



市有林の間伐材を利用したイカダ作り



作ったイカダが浮くかプールで実験



実際にイカダを浮かして漕ぐ体験



イカダをベンチに転用して活用

内 容	・森林や林業と漁業の話 ・間伐材利用
時 間	半日程度（総合学習の時間等）
場 所	市有林内（矢浜小）、 校内（向井小）、 校内及び古江漁港（輪内中）
対 象	矢浜小学校 11 人、 向井小学校 10 人、 輪内中学校 8 人
講 師	有限会社ドーモ 尾鷲藪漕隊 地域おこし協力隊 尾鷲市水産農林課
備 考	地元の基幹産業と地域のブランドである尾鷲ヒノキを知る機会であり、 今後も継続して行ってほしい。

【先生のコメント】 地元の基幹産業と地域のブランドである尾鷲ヒノキを知る機会であり、今後も継続して行ってほしい。

尾鷲ヒノキの木エキットで本棚作り

尾鷲市内の小学校



尾鷲ヒノキの本棚作り



「植える」について学ぶ



「育てる」について間伐率を考える



「使う」について学ぶ

ねらい

- ・ 地元産材である尾鷲ヒノキの良さを改めて確認しながら、地産地消の取り組みの一環として、尾鷲ヒノキ製の木工キットの作成、森林・環境教育をともに実施することで、子どもたちに尾鷲ヒノキに直接ふれる機会を創出し、将来に繋げる尾鷲ヒノキファンを増やす

取組内容

尾鷲ヒノキ林業を校内で体験できるよう、「植える」～「育てる」～「使う」～「植える」の緑の循環を実際体験しながら、学んでもらう取組を実施しました。

「植える」では、尾鷲ヒノキ林業の特徴である密植を説明したうえで、実際にヒノキを植える際にまっすぐ植えることや、根を外に出さないようていねいに植えることなどを体験しました。

「育てる」で実施した間伐体験では、木の土台を付けた10年生の尾鷲ヒノキ約20本を配置し、どの様に間伐すると良いかを子どもたちが自分たちで考えて実践してもらいました。その際、間伐率に正解は無く、この木を50年後にどのような木に育てたいか、太くしたいなら間伐率は高く、年輪幅を細くしたいなら低くするとアドバイスし、林業は将来を見越して経営していることを学んでもらいました。

「使う」では、木材市場での売買の様子や、製品の種類によって加工の方法が違うことなどを説明し、最終的には木を伐った山はまた植えることで、林業とはサステナブルなものであることを理解してもらいました。

疑似的な林業経営体験をとおして、林業の大切さ、自然環境への影響、地元で生産された木材を活用する大切さを学びました。最後に、地元産材を活用した本棚作りを行いました。

内容	・ 森林や林業の話と疑似間伐体験 ・ 地域材を使った本棚作り
時間	90分程度 (総合学習の時間等 小学校)
場所	校庭、体育館
対象	市内各小学校(5・6年生) 227人
講師	尾鷲市水産農林課
備考	尾鷲市の「学校事業等における地元産材活用支援事業」

【先生のコメント】 フィールドワークとして校外で実施するものを校内で行ってもらえるので、他の学年の生徒も周りから見え、自分たちもして欲しいとの声が上がりました。今後も引き続き森林教育を行ってほしいです。

三重の木で世界に一つだけのMY箸をつくろう

南伊勢町立南勢中学校



森の役割や林業をわかりやすく教えていただきました



木を実際に見たり触ったりして木の名前をあてるクイズを楽しみました



木の匂いをかぎくらべて「森の匂いがする！」など感動している様子がありました



小刀の使い方を目の前で実演して教えていただきました



お世話になった先生方と記念写真を撮りました。あっという間の楽しい2時間でした。

ねらい

- ・ 三重の森林や林業の特色、働く方々の仕事への想い、今の林業の現状や課題について学ぶ
- ・ 木工芸品の用途や機能、木の特性についても知る
- ・ 木の特性を生かしたデザインを考え、加工の仕方を学ぶ

取組内容

- ・ 森のせんせいから、森林の役割や林業に携わる人々が森を守るためにどのようなことをしているのかなど、写真や動画でわかりやすく教えていただきました。また、今の林業の仕事の内容とSDGsとの関わりを具体的に図で説明していただきました。
- ・ 実際にスギ、ヒノキ、サクラやツバキの木を持ってきていただき、触ったり、匂いをかいだりして違いを知ったり、良い木の見分け方や価格などを楽しく学ぶことができました。また、生徒から林業の苦労は何か、という質問があった時、丁寧にそのことについて話していただきました。生徒たちは熱心に聞き入っていました。全体を通じて林業に携わる人々の森や自然を大切にしたいという想い、が伝わってきました。
- ・ 三重の間伐材を使い、木材の特徴と加工の仕方を学び、オリジナルの箸を制作しました。小刀を始めて使う生徒が多かったですが、森のせんせいに、一人ひとりの使い方を丁寧にみていただき、全員が小刀の使い方をマスターすることができました。また、生徒のデザインした箸の形を実現するために、小刀やサンドペーパーをどういう風に使うと良いか、具体的にアドバイスしていただきました。生徒たちは削るときの木の香りや感触を楽しみながら、デザインした箸の形になるように、一生懸命道具の使い方を工夫して制作に取り組んでいました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間（美術科）
場所	教室、美術室
対象	1 年生 20 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 実際に林業に携わるプロの方から、現在の取り組みや課題をわかりやすく具体的に教えていただきました。実物の木を触ったり、匂いをかいだりして比べるためにたくさんの木を準備していただきました。木の加工については、一人ひとりの生徒の制作意図に応じたやり方を丁寧に教えていただきました。生徒たちは授業をととても楽しみ、一生懸命取り組んでいました。とても心に残る授業になりました。

地元の木を使った商品開発

～お世話になっている地域への「お返し」～

三重県立飯南高等学校



山林見学



チラン



打ち合わせ



集合写真



木の手帳

ねらい

- ・ 地元企業とコラボして地域の魅力を知り発信する
- ・ お世話になっている地域の方々へお返しをする

取組内容

1年生は年2回フィールドワークとして地域で様々な体験をさせていただいています。

そのような中、2018年、応援団Circleの生徒が「お返しに地域応援もしよう!」と地域の仕事を調べ、地元の主力産業である林業・製材業の「もくいち/マルゴ株式会社」や「沖中造林」を訪れ、地域が森林や木材と共に発展してきた歴史や、大切に管理された山林の壮大さに触れました。

生徒たちはこれら「地域の魅力」をたくさんの人に知ってもらい、地域にお金を生み出す仕組みを作るため、もくいち/マルゴ株式会社の前川さんをはじめとする地域の方々に指導いただきながら地元の木を使った商品開発を行いました。

今年度はそうしてでき上がった「木の手帳」を「第一回全国高校生1億円プロジェクト2022in青森」等で販売することができ、地域で生産された木材や木製品の価値を肌で感じることができました。

内容	・ 林業や製材業の仕事調べ ・ 林地と製材所の見学 ・ 木の手帳制作と販売
時間	応援団Circle（メインは野球部の応援団）の活動時間の一部で実施
場所	教室及び現地（もくいちマルゴ株式会社、沖中造林株式会社の山林など）
対象	応援団Circle（おうえんだん さーくる）令和4年度 7人
講師	もくいち/マルゴ株式会社 沖中造林株式会社 浜佐建設デザイン

【先生のコメント】 ビジネスとして継続できるよう価格設定したため少し高価な手帳となりましたが、商品として売れたことで生徒達はその魅力を再認識しています。「何もない」と思っていた地域が価値あることに気づき、誇りに思うとともに、その気持ちは生徒自身の自己肯定感にもつながったと思います。

23

『木』を知ろう ～マイスプーン作り～

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園



サンドペーパーで角をとっています



せんせいに磨き方を教えてもらっています



フックナイフを使って削っています。初めてこの道具を使いました



スライドを見ながら、せんせいのお話を聞きました

ねらい

- ・「木」には名前や種類があることを知る
- ・木の役割と身近な用途を知る
- ・木材加工の自由度を体感する

取組内容

はじめに、森のせんせいから「樹」には名前や種類があること、「木」は種類によって、用途が違うことなどを教えていただきました。生徒たちは、自分たちの身の回りでどんなものに木が使われているのかを教室の中から探したり、生活の中から考え出したりして意見を出し合いました。

次に、マイスプーン作りに取り組みました。粗削りされた様々な材質のスプーンから自分の好きな形を選び、サンドペーパーで磨いていきました。磨く前と後の手ざわりの違いを指先で確かめながら、表面がつるつるになるまで根気よく磨きました。自分だけのスプーンができあがり、満足した表情の生徒たちでした。

【先生のコメント】 自分たちの身近にもさまざまところで木が使われていることに気付くことができました。マイスプーン作りでは、自分のスプーンと友だちのスプーンを見比べ、一つとして同じものがない、木ならではの良さを感じとっていました。

内 容	・森や木の話 ・マイスプーン作り
時 間	2 時間20 分 (社会科・理科・生活単元学習)
場 所	教室
対 象	中学部 2 年生 10 人
講 師	森のせんせい：芝野利夫氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

24

森林とわたしたちの暮らし ～三重の森林～

三重大学教育学部附属小学校



日本人と森林との関わりについて



現在の日本の森林面積について



本物のスギ・ヒノキを用いての学習



現在の三重県の森林について

ねらい

- ・森林のはたらきや林業について知る
- ・三重県の林業の現状と課題や取組について知る
- ・三重県の林業について学んでいくことで、さらに視点を広げ、日本の国土の環境と国民生活の関連について考える

取組内容

わたしたちの生活と森林との関わり、日本や三重県の林業の現状と課題、取組について資料や写真、データ等を基に学習しました。

三重県の林業について学んでいくことで、さらに視点を広げ、日本の国土の環境と国民生活の関連について、森林資源の分布や働きなどを調べたり、森林が果たす役割を考えたりすることにつながることができました。授業をとおして、林業の現状を踏まえ、森林を大切にするために自分にできることを考える子どもたちの姿が見られました。

内 容	・森林や林業の話
時 間	90 分（社会科）
場 所	教室
対 象	5 年生 A 組 32 人
講 師	三重県津農林水産事務所 森林・林業室 林業振興課 三重県林業研究所 普及・森林教育課

【先生のコメント】 子どもたちは、三重県の林業の現状と課題や取組について興味・関心を高めていました。インターネットを中心に調べ学習を行っていましたが、本物との出会いは子どもの知的好奇心を増幅させるとともに、林業を様々な視点や立場から捉えることにつながると感じました。

Save The Earth Projects

～次世代につなぐ持続可能な森林とは？～

三重大学教育学部附属中学校



森のせんせいによる講義



手入れされた森とされていない森の比較



グループでのワークショップ



樹齢の違う木々を比較する様子

ねらい

- ・SDGsNo.15「陸の豊かさも守ろう」に基づき、大紀町の林業と気候変動についての知識を深める
- ・体験的な学習を通じて、グローバルかつ主体的に考え、取り組む姿勢を養う

取組内容

三重大学附属中学校では、総合的な学習の時間に、気候変動や防災を切り口としてSDGsについて学んでいます。

はじめに講師から適切な森林管理の大切さや森林が環境や経済に与える影響などを学びました。その後、実際に森に入り、樹齢の違う木々の様子や手入れされた森と手入れがされていない森を比較し、その違いを観察しました。

今回の講義とフィールドワークを通して、紙製品や建物に使用される木々がどのような方法で育てられているか、林業がいかに私たちの生活に密接に結びついているかについて改めて知る良い機会になりました。また森林に住む動植物の生態系を守っていくことの大切さや、林業は資源を大切にしながら人が自然とともに生存していくための持続可能な産業であることへの理解を深めることができました。

【先生のコメント】 地元の林業を支える吉田さんから、林業の現状や限りある資源をどう活用していくかについて学び、森林に対する思いを感じ取ることができました。通学時に電車等から森を見ることはありますが、辺り一面木々が生い茂る森に実際に入るといことはなく、貴重な体験ができました。今後は、私たちの生活と林業の関わりを切り口として、地球温暖化をより身近な問題として考えることができる学習をすすめていきたいです。

内容	・森林や林業の話 ・林業地でのフィールドワーク
時間	2 時間（総合的な学習の時間、森林と林業の講話：1 時間、森林のフィールドワーク：1 時間）日を変えて、2 学級毎で実施。
場所	株式会社ひのき家2F研修室、吉田本家山林部の森林
対象	1 年生 144 人
講師	森のせんせい：吉田正木氏（吉田本家山林部）

森や木について学ぼう

～県産材を用いて自分だけの小箱を作ろう～

皇學館中学校



森の働きや林業について



電熱ペンを使う様子



小箱作りの説明



木材についての説明



熊野にて



間伐体験

ねらい

- ・身近にある林業の現状や森林の働きを学び、自分たちの環境に重要な役割を果たしていることを知る
- ・県産材を使って工作を行い、木の良さを感じ、木に親しむ
- ・SDGsと地元の林業の関わりを知り、自分たちにできることは何かを考える

取組内容

地元の森林や林業の知識を深め、三重県の林業、産業等を学ぶ熊野での宿泊研修を充実するために事前に実施しました。

最初に森林の役割や海・自分たちの生活との関係について映像やクイズで詳しく教えていただきました。また、SDGsとの繋がりを学ぶことができました。

次に、三重県産のスギやヒノキを使った小箱作りでは、自分で釘を打って、電熱ペンを使用して字や絵をかくてオリジナルの作品を作りました。木材の性質について詳しく学ぶことができました。

内容	・森林や林業の話 ・地域材を使った小箱作り
時間	3 時間（総合的な学習の時間）
場所	教室、技術室
対象	2 年生 26 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合 森のせんせい：杉本芳氏 森のせんせい：貫じん堂
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森林の役割や大切さやSDGsとの関係について詳しく知ることができ、森林を守っていかうと日々取り組んでみえる林業に携わる方々への感謝の気持ちを抱くことができました。そして、県産材の小箱制作を通して、木材に魅力を感じ、木の存在を身近に感じることができました。

また、熊野の宿泊研修では、生徒全員がノコギリを手にして間伐を体験させていただき、立ち上るヒノキの香りに、森のせんせいの小箱と同じ匂いだと鼻を寄せ合い、小箱に使用した木材への製材の流れに思いを馳せました。また、立派な木を育てる豊かな山を守るため、間伐が重要な役割を果たしていることや、機械のない時代に古人が続けてこられたご苦労を口々に語るまで成長することができました。ありがとうございました。



森のせんせいによる木や森のはたらきの話



森林クイズ



楽しく参加しながら学びました



丸太切り体験



円盤を使って作品づくり



木のおもちゃ遊び

ねらい

- ・ 森林の役割について知り、木は私たちの生活の中のどんなところに使われているかを知る
- ・ 木について学んだり、ふれたり、体験したりする中で木に親しみを持ったり、身近なものだと感じたりする

取組内容

はじめに森のせんせいから木や森のはたらきについて話を聞きました。そのあとは10人ずつの3グループに分かれて、活動を行いました。

森林クイズでは地元桑名の木のことや私たちの生活が木によって支えられていること、身近に森があることの大切さなどをクイズを通して楽しく学ぶことができました。

丸太切り体験や円盤のかざりつけでは、ノコギリの引き方やサンドペーパーのかけ方などを実際に使って学びました。切口にサンドペーパーをかけるとなめらかな肌ざわりになったり、マツボックリや木の実を使ってオリジナルのメダルやオブジェを作ったりして木や自然に親しんでいる様子でした。

木のおもちゃ遊びではつみ木や木のかるたで遊び、木の感触や香りを楽しみながら木のぬくもりを感じていました。2時間では時間が足りないぐらい充実した時間を過ごすことができました。

内容	・ 森林の話 ・ 丸太切り体験と作品作り
時間	2 時間
場所	深谷教育集会所内みんなのひろば・中庭
対象	1 年生 7 人、2 年生 1 人、 3 年生 7 人、4 年生 8 人、 6 年生 4 人 計27 人
講師	森のせんせい：林業女子会@みえ 森のせんせい：館俊樹氏 森のせんせい：山根由士氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 各体験コーナーでは、子どもたちの興味や関心、また意欲や想像力を掻き立てるようなものを用意していただきました。体験後も、森林教室で体験したことや学んだことを嬉しそうに話す子どもたちの姿がありました。ねらいでもあった「森林に対する興味関心」は高まったと感じます。



枝払い



薪サイズに切り分け



説明



葉っぱの見比べ

ねらい

- ・ 自然と人間が共生していくことの大切さを知る
- ・ 身近な自然とふれあう

取組内容

四日市市内の学校を対象に「里山保全活動」を学校行事の活動プログラムの一つとして取り入れていただきました。

まず里山林のなりたちや生活サイクルの変化を説明しながら、昔は利用されていた里山林が使われなくなっている現状や理由、何もしないままではどうなるのかを児童たちに考えてもらいました。そして自然の家のふれあいの森にはヒサカキが多く、暗い森がある現状を伝え、保全活動の中から「ヒサカキの伐採」「枯れ枝集め」を体験してもらいました。森の中に入る前には、どの木を切るか一緒に確認を行い、ノコギリの使用の確認もしました。班で1~2本のヒサカキを伐り、さらに薪として使える長さに切りそろえてもらいました。

活動の最後には、木を切ることの大変さ、そして森を守ることの大切さを話しました。子どもたちは実際に体験することでそれらのことについて考える大切な機会になったのではないかと感じました。

内容	・ 里山の話 ・ 里山保全活動
時間	2 時間
場所	四日市市少年自然の家 体育館及びふれあいの森
対象	四日市市立泊山小学校 5 年生 70 人
講師	四日市市少年自然の家
備考	学校行事「自然教室」の活動プログラムとして実施

【先生のコメント】 子どもたちの表情から楽しかった様子や充実した様子を感じることができ、一緒に素敵な時間を過ごせたことが嬉しく思います。今後も子どもたちに体験してもらいたいプログラムです。

森のめぐみのプレイパーク！

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会



トレイル（木道、ハンゴ、木渡り）



弓矢



クップ



ロープ掛け



ねらい

- ・ 森に囲まれたフィールドで過ごしたり、木にふれて、森の大切さを体験する
- ・ ヒノキの良さや、木にまつわる仕事(木工や林業)を知り、体験する
- ・ 木や竹などの自然素材でできた手づくりの遊具で遊ぶことの楽しさを感じる

取組内容

協議会では、鈴鹿川等の源流が育む地域資源を守り、次世代へ引き継ぐための取組を行っています。

はじめに講師から森の大切さ、魅力について話を聞いてから、ヒノキのカンナくずで縄をないました。実際に香りや手ざわりを楽しみながら作業を行うことで木の魅力について感じる事ができました。

その後、プレイパークとして事前に準備した体験（ロープ掛け、弓矢、トレイル、丸太切り、クップなど）を順番に行いました。体験については、協議会だけでなく講師や地域の年配の方からの話を聞いた上で内容を決定したことで、短時間のイベントの中で多くの体験を行い、木にまつわる仕事だけでなく自然を利用した様々な遊び方を知ることができました。

イベント全体を通じて、源流域の自然環境等について学ぶ機会となりました。

内容	・ 森林の話 ・ プレイパーク体験
時間	2 時間
場所	市内休耕田
対象	亀山市内の親子 8 組 22 人
講師	森正裕氏 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会
備考	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した事業

【保護者のコメント】 子どもだけでなく大人も楽しめるイベントでした。自然に囲まれたフィールドで森の魅力や大切さを感じるだけでなく、木にまつわる仕事を知り、体験する貴重な機会となりました。

原木シイタケ菌打ち活動 ～森の恵みを体験しよう！～

げんぼく きんしょう

原木と菌床シイタケの違いを食べて学ぼう

30

松阪市森林公園



生産者の話



野菜ソムリエの話



原木シイタケ

ねらい

- ・ 森林の役割を原木シイタケ栽培を通して生産者から学ぶ
- ・ 原木と菌床シイタケの育て方の違いを学ぶ
- ・ 原木と菌床シイタケを食べ比べ味の違いを知る

取組内容

まずは大石里山保全会の青木さんからシイタケのお話を伺いました。栽培については、クヌギやナラの原木に菌を打って、山の中で1年以上も熟成させて栽培する原木シイタケと、おがくずや米ぬか等で4か月ほど栽培する菌床栽培の2種類があること、原木栽培は農薬や肥料を使わず、木の養分だけで育てること、使い終わった原木はカブトムシを育てるのに使ったり、土に戻ることから、自然にやさしい栽培方法であることや、キノコも森の恵みであり、美味しいキノコを育てるには広葉樹の森が必要であることを学びました。

続いて、2種類のシイタケの食べ比べをしました。野菜ソムリエプロから、スーパーでよく見る生シイタケはほぼ菌床栽培で、原木栽培は干しシイタケで販売されていることが多く、三重県では直売所等で原木シイタケが生でも販売されていますが、大変珍しいそうです。参加者は、原木シイタケは香りが良く、肉厚で歯ごたえもしっかりしていて美味しいと評価していました。

菌打ち体験では、ホダ木にコマ菌をカナヅチで3回程叩いて木の表面から見えない程度に埋め込みました。

最後に家庭での管理方法として、日陰に置いて1週間に1回程乾燥させない程度に水をかけ、ホダ木全体に白く菌が回ってきたら成功と話がありました。後は2年後の秋頃から収穫が楽しめるようです。



菌打ち

内容	・シイタケの話 ・シイタケの菌打ち体験
時間	1時間30分
場所	キャンプ場
対象	児童 46人（保護者 40人）
講師	森のせんせい：青木茂氏（大石里山保全会） 野菜ソムリエプロの方
備考	公益社団法人三重県緑化推進協会「森林教室」

【先生のコメント】 原木シイタケ栽培の目的や美味しさを知ってもらう良い機会になったと思っています。育てるまで2年近くかかりますが、管理方法について生産者に熱心に質問されていた方が多く、頑張ってぜひ収穫してほしいと思います。

2022年度 お楽し森の学校

伊賀びよクエの森（三重県上野森林公園）



森の中を探検している様子



ロープワークやノコギリなどの技術を学ぶ様子



やりたいことの計画を立てている様子



ツリーデッキの梁をつくっている様子



ササの秘密基地を整備している様子



家族へのお披露目会をし、ツリーデッキで記念撮影

ねらい

- ・子どもたちが自ら考えた夢を自らの力で形にする体験を通して主体性や創造力などの生きる力を育む
- ・里山を身近で大切な存在としてとらえることのできる心を育む
- ・子どもたちが継続的な活動から自分たちの多様性を認め合う

取組内容

このプログラムでは、子どもたちが「自分の考えた“楽しいこと”を森の中に実現する」という全体のテーマに基づき、全5日間のプログラムを開催しました。

1日目はお楽し森がどんなところか知るために森の中を探検し、スタッフが考えた“楽しいこと”を体験してもらいました。2日目は自分の“楽しいこと”を実現するために必要な技を磨く時間、3日目からは子どもたちが考えた“楽しいこと”で「ツリーデッキ班」「ササの秘密基地班」「ひとりで作る班」の3グループに分かれ、各班で自分のやりたいことを実現していきました。

これまでロープワークに集中できなかった子どもが自分の“楽しいこと”を見つけイキイキとしている様子が見え、自分で考えたものを自由に実現する姿はとでも楽しそうでした。

たった5日間のプログラムですが、子どもたちにとってはかけがえのない経験になったと思います。

【保護者のコメント】 先生が指導し、その通りに子どもを育てようとするのではなく、子どもの自由な発想を大切にしていること、思いを実現できるようにサポートされている姿に、本当に感謝です。

内容	・里山を舞台にした主体性や創造力を育む活動
時間	各回 6 時間30 分
場所	ビジターコテージ周辺
対象	小学 6 年生 1 人、 5 年生 2 人、4 年生 9 人
講師	NPO法人ECCOM
備考	公園事業

みえ森林教育ビジョン（概要版）

- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠

充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育

森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育

自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

取組の進め方

森林教育の裾野の拡大

- 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大
- 保育や教育への森林教育の更なる普及
- 大人や企業を対象とした森林教育の拡充

子どもから大人まで一貫した教育体系の構築

- 新たなみえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進
- 林業・木材産業に従事する方との連携強化

主体的・対話的で深い学びの充実

- 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及
- 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大

指導者の養成

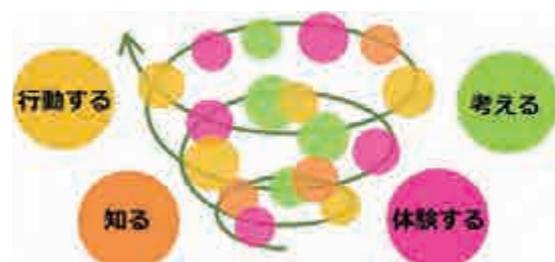
- ビジョンの指導者への共有
- 指導者養成講座の体系化

【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



森林教育のサポート



学校や幼稚園、保育所、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行います。

●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・授業を行うにあたっての相談対応
- ・授業の組立やプログラム作成のお手伝い



「出前授業」

これから森林教育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。



みえ森づくり サポートセンター

森づくりの つながり

「森のせんせい」や「森づくり活動団体」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林教育、森づくり活動を行う団体との連携を図ります。



物品や資機材の貸出

森林教育に活用できる道具・遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

●貸出物品の一例

- ・クップ用品の一式
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ハンディ GPS など測量用具各種



「ミエトイ・ キャラバン」

木育を多くの方に体験していただくために、三重の木を使った木製遊具などを出展する「ミエトイ・キャラバン」を行っています。

指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



●講座の内容

- ・地域講座「森林教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・教職員対象の森林環境教育研修の開催

イベントの開催



広く森林教育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

●イベントの一例

- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・県民参加の植樹祭の開催
- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催

表紙の写真 第9回みえの森フォトコンテスト入賞作品
(表) 中学生以上の部 「青と緑のコントラスト」 齋田 裕音さん
(裏) 小学生以下の部 「たまご」 相原 恭吾さん

【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorise/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

Instagram <https://www.instagram.com/miemoridukuri/>



この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。
みえ森と緑の県民税については、こちらをご覧ください。



【発行】 三重県農林水産部